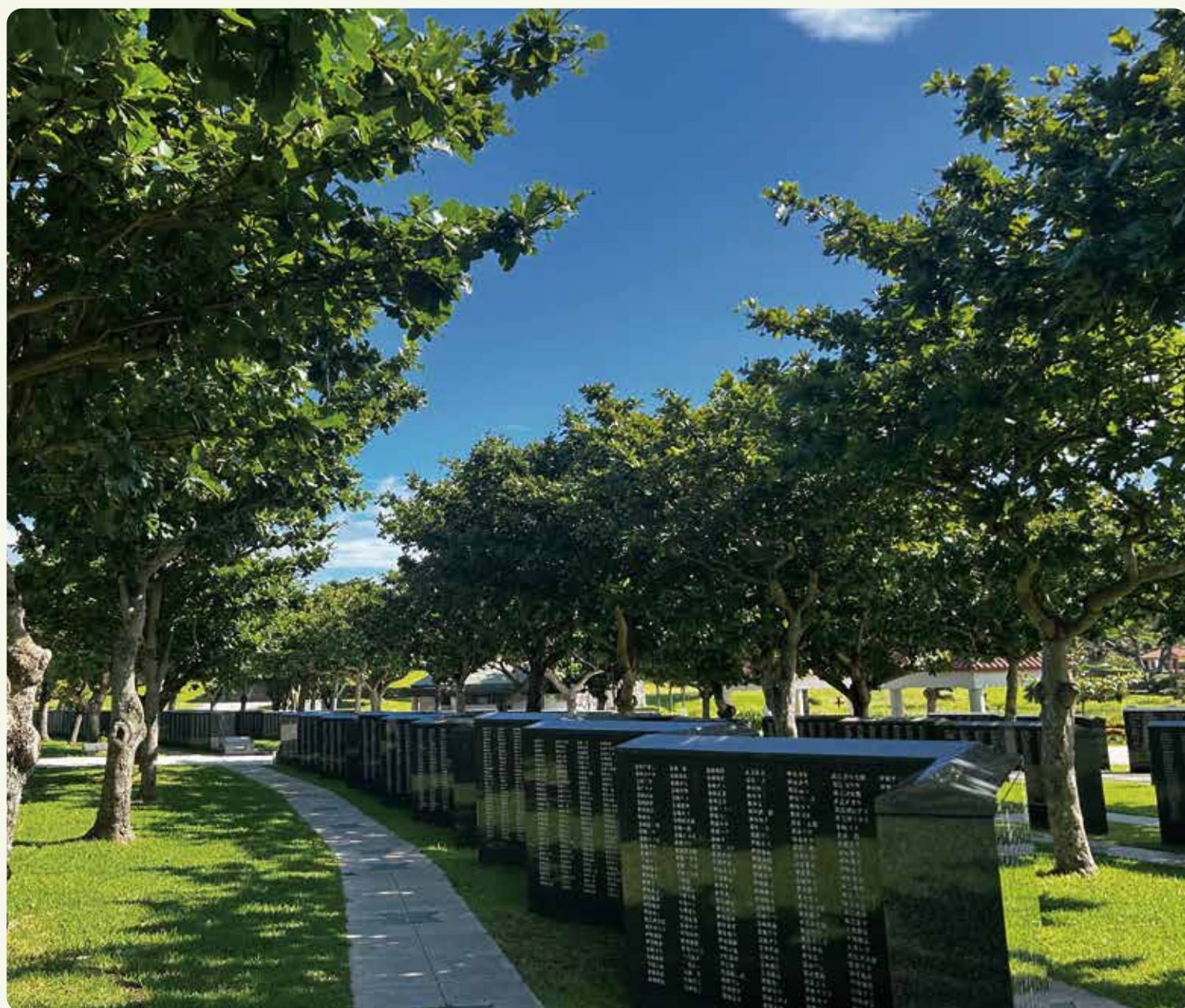


令和7年度 沖縄戦の語り継ぎ手養成講座

報告書



平和の礎の風景

沖縄県平和祈念資料館

事業の基本方針

本事業における3つの特色

受講者中心

講義型のインプット（知識習得）を中心とする講座ではなく、本事業の受講者が中心となり学んだ内容をアウトプットする時間を設ける。「語り継ぎ手」になることを意識し、事業修了後にガイドとして活躍できる人材の育成を目指す。

ガイド教材の開発

参加者と共にガイドの現場で活用できる資料や教材の作成に取り組む。事業で学んだ内容を、自分ならどのように伝えていくのか参加者自身が目標を設定し、考え、行動に移すことが本事業の大切なゴールだと考えている。

メディアの活用

本事業の取り組みをより多くの方に関心を持っていただくために、メディアへの発信を重視する。沖縄県の平和への取り組みが県内外に伝わることで、事業に直接関わる方々以外にも事業の効果が波及することを期待する。

沖縄戦の体験や平和への思いを次代に伝えていくための知識、技能、発信力を持った「語り継ぎ手」を育成する

講座の全体構成

本事業における講座の全体構成

本講座は、以下の3つの内容で構成されており、知識習得から実践的な技能まで段階的に学べるように設計しています。

【1】知識・理解系（講座①～④）

沖縄の歴史、戦争やマラリアの体験、戦後復興など、語り継ぎ手として必要な知識を専門家から学ぶ

【2】体験・実習系（フィールドワークA、B）

地域の戦跡や資料館等を訪れ、記憶と場所を結びつけて体感的に学ぶ

【3】構築・発信系（講座⑤～⑩）

「語る」「伝える」ための技術、構成力、発信力を身につけ、自ら講話やガイドを組み立てる実践型講座、平和学習や講話のための教材作成、発表会を実施する

講義スケジュール

実施期間：2025年8月23日～11月15日（8日間）

実施回数：14回

沖縄本島会場					
月	日	曜日	回	内容	講師・担当
8	23	土	1	事前オリエンテーション、開校式	沖縄県
			2	沖縄の近代史・琉球王国時代～戦前の沖縄【知識・理解①】	新城俊昭
8	30	土	3	沖縄本島及び離島地域における沖縄戦【知識・理解②】	大城 航
			4	八重山戦争マラリア【知識・理解③】	大田 静男
9	13	土	5	沖縄の戦後復興、戦後～現在【知識・理解④】	仲本 和彦
			6	沖縄戦体験者の語り継ぎ手に関する講座及び実習A【構築・発信⑤】	普天間朝佳 中川 みどり
9	20	土	7	沖縄島中部の戦争関連遺跡及び施設【フィールドワークA】※バスツアー	中田 耕平
10	4	土	8	沖縄島南部の戦争関連遺跡及び施設【フィールドワークB】※バスツアー	大田 光 仲村 真
10	11	土	9	レポート作成について、振り返り【構築・発信⑥】	うなゝ沖縄
			10	平和学習ファシリテートに関する講座及び実習【構築・発信⑦】	玉城直美
11	8	土	11	沖縄戦体験者の語り継ぎ手に関する講座及び実習B【構築・発信⑧】	吉田 伸 井出 佳代子
			12	平和講話・ガイド、語り継ぎの実践に関する講座及び実習【構築・発信⑨】	うなゝ沖縄
11	15	土	13	平和講話・ガイド、語り継ぎの実践に関する講座及び実習【構築・発信⑩】	うなゝ沖縄
			14	閉校式、修了証書授与	沖縄県

石垣島会場					
月	日	曜日	回	内容	講師・担当
8	23	土	1	事前オリエンテーション、開校式	沖縄県
			2	沖縄の近代史・琉球王国時代～戦前の沖縄【知識・理解①】	新城俊昭
8	30	土	3	沖縄本島及び離島地域における沖縄戦【知識・理解②】	大城 航
			4	八重山戦争マラリア【知識・理解③】	大田 静男
9	13	土	5	沖縄の戦後復興、戦後～現在【知識・理解④】	仲本 和彦
			6	沖縄戦体験者の語り継ぎ手に関する講座及び実習A【構築・発信⑤】	八重山戦争マラリア 遺族会
9	20	土	7	石垣島内の戦争関連遺跡及び施設【フィールドワークA】※バスツアー	綿貫 円 石堂 徳一
10	4	土	8	西表島内の戦争関連遺跡及び施設【フィールドワークB】※バスツアー	内原 勲
10	11	土	9	レポート作成について、振り返り【構築・発信⑥】	うなゝ沖縄
			10	平和学習ファシリテートに関する講座及び実習【構築・発信⑦】	玉城直美
11	8	土	11	沖縄戦体験者の語り継ぎ手に関する講座及び実習B【構築・発信⑧】	八重山戦争マラリア を語り継ぐ会
			12	平和講話・ガイド、語り継ぎの実践に関する講座及び実習【構築・発信⑨】	うなゝ沖縄
11	15	土	13	平和講話・ガイド、語り継ぎの実践に関する講座及び実習【構築・発信⑩】	うなゝ沖縄
			14	閉校式、修了証書授与	沖縄県

平和講話・ガイド、語り継ぎの実践に関する講座及び実習

進行：玉城 直美 氏（（株）うなゑ沖縄 代表）

講評：棚原 和宏 氏（沖縄県平和祈念資料館）

成果発表会

<沖縄本島会場と石垣島会場とオンラインで結ぶ>



- 1) グループ内発表会（30分程度）
 - ・ 4～5人で8グループつくる
 - ・ グループ内で発表（発表5分×5人）
- 2) グループ内で代表発表者決める（5分程度）
- 3) 代表発表（70分）※石垣島はオンライン
 - ・ 沖縄本島6人（発表7分＋準備1分×6人 48分）
 - ・ 石垣島2人（発表7分＋準備1分×2人 16分）

受講者の声（要約）

- 自分にできることを、継続して取り組んでいきたいと改めて思いました。本講座で繋がった受講者と連携した、平和ガイドの取り組みが実践できたらと考えました。
- 語り手としての自信が付き、今後のガイドに活かせる機会になりました。
- この講座を受けて、地域以外の沖縄戦の実相を学ぶことができました。初めはどのように学んでいいのかわからない不安もいっぱいありましたが、周りの先生方や受講者の方々に色々教えてもらって、とても充実した研修を受けることができました。この研修で学んだことを生徒に還元できるように、日々研修を続けていながら沖縄戦がいかに悲惨であったのか、またそこに生き延びてきた人たちの思い、亡くなった方々の思いをどのように生徒に伝えていくか？を模索しながら研修に取り組んでいきたいと思えます。
- 改めて「沖縄戦の語り継ぎ手養成講座」に参加させていただき心から感謝いたします。ありがとうございました！ 非常に充実した学びをいただき、同じ受講者の方からもたくさんの刺激を受けました。さっそく作ったプランを実現させるために動いていきたいと思えます。

閉校式・修了証書授与

閉校式

<沖縄本島会場と石垣島会場とオンラインで結ぶ>

- 1) 激励の言葉（友の会 会長 久保田暁）
- 2) 主催者挨拶
（沖縄県平和祈念資料館 館長 大城友恵）
- 3) 修了証書授与 ※石垣島は別で開催
- 4) 受講者代表挨拶
- 5) 記念撮影
- 6) 沖縄県平和祈念資料館友の会についての説明



受講者の声（要約）

- 戦争学習では、子どもたちの感想が「戦争はだめだ」といった定型的な表現にとどまってしまいう課題に直面します。子どもが主体的に学べていない背景には、教員である自分自身の指導のあり方にも省みる点があると感じました。
- これからも沖縄戦に関する学習の場が、月に1回～2回程度あるといいと思った。大城館長のお話の中でもあったように、沖縄戦、平和というテーマは、重いテーマで視点の多角化が必要なものだと思う。そのために沖縄戦を語り継ぎたい思いのある人たちが、繋がりながら共にブラッシュアップできる場が欲しいと思った。
- 受講者の方々のいろいろな考えに触れて、これからの平和の継承の仕方をいろいろな視点で学ぶことができました。また、今後の活動の意欲も高まり、これから自分が頑張るポイントや将来の展望が見えてきて、とても良い経験になりました。感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。
- これからやってみみたいことが増えました。想いを持って活動していきたいです。

令和6年度 受講者 対象

進行：玉城 直美 氏（（株）うなゑ沖縄 代表取締役）
報告者：内山 直美 氏（豊崎中学校教頭）

令和7年度「沖縄戦の語り継ぎ手養成講座」としての第一回フォローアップ研修は、過年度受講者が集う「振り返りの会」として開催されました。前半は、当時の学びや各自のプランシートを基にした活動報告を行い、「教材づくり」や「子どもとの対話」といった実践的な課題について情報交換を深めました。後半は、今後の活動支援やネットワーク再構築をテーマに議論し、連携強化への決意を新たにしました。

事例発表では、内山氏が、次世代継承を意識した先進的な平和学習の実践を報告しました。同校では「探究」をテーマに、教科横断的なプログラムを展開。ワークショップや「感情シート」を用いて生徒が歴史を自分ごと化する工夫や、VR活用、外部講師の招聘など多角的な手法が紹介されました。特に、沖縄の象徴的な日を扱う特設授業は、戦後史までを見据えた視点を養うものとして注目されました。

本研修は、学校現場での具体的なアクションと、語り継ぎ手同士の対話を掛け合わせることで、地域全体で学びを未来へ繋ぐための具体的かつ実り多い機会となりました。

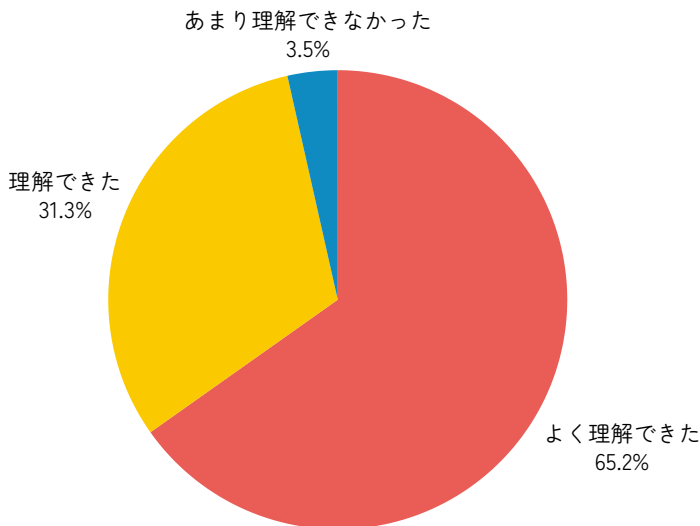


フォローアップ研修後の声（要約）

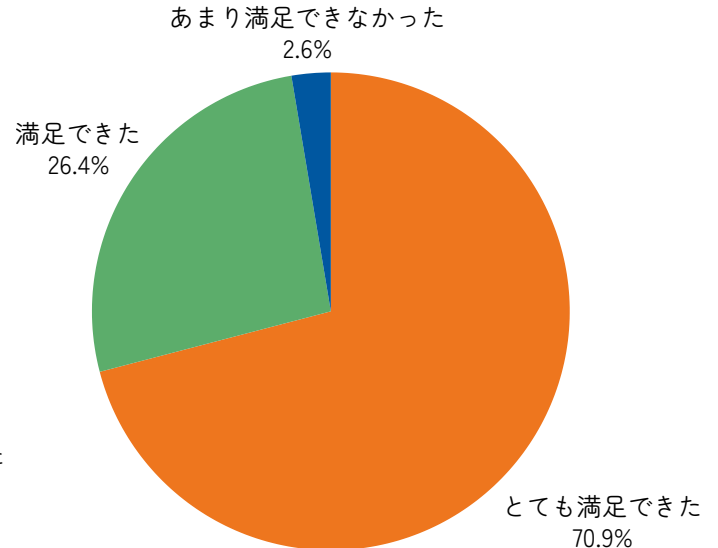
- 自分にできることを、継続して取り組んでいきたいと改めて思いました。本講座で繋がった受講者と連携した、平和ガイドの取り組みが実践できたらと考えました。
- 語り手としての自信がつき、今後のガイドに活かせる機会になりました。
- この講座を受けて、地域以外の沖縄戦の実相を学ぶことができました。初めはどのように学んでいいのかわからない不安もいっぱいありましたが、周りの先生方や受講者の方々に色々教えてもらって、とても充実した研修を受けることができました。この研修で学んだことを生徒に還元できるように、日々研修を続けていながら沖縄戦がいかに悲惨であったのか、またそこに生き延びてきた人たちの思い亡くなった方々の思いをどのように生徒に伝えていくか？模索しながら研修に取り組んでいきたいと思っております。これまでの研修で多く計画をしてくださいました。
- 改めて「沖縄戦の語り継ぎ手養成講座」に参加させていただき心から感謝いたします。ありがとうございました！非常に充実した学びをいただき、同じ受講者の方からもたくさんの刺激を受けました。さっそく作ったプランを実現させるために動いていきたいと思っております。

各講座（8.23～11.7）の受講者アンケート結果

Q：講座内容はどの程度理解できましたか？



Q：講座内容の満足度をお聞かせください



養成講座アンケート分析報告

本講座は、受講者の理解度96.5%、満足度97.3%と極めて高い水準にあり、「語り継ぎ手」養成に向けた確かな手応えを得る結果となった。

1. 講座の定着度

「よく理解できた」との回答が65.2%に達し、専門的な内容ながら適切な情報提供がなされたと評価できる。一方で、満足度における2.6%の課題点は次年度への改善材料とする。

2. フィールドワーク分析

沖縄本島会場:「チビチリガマ（25票）」や「一中学徒隊資料展示室（19票）」への関心が高く、凄惨な記憶や同世代の記録が受講者の心に深く刻まれている。
石垣島会場:「名蔵白水の戦争遺跡群」や「忘勿石之碑」が上位に挙がり、地域特有の「戦争マラリア」を現場で学ぶ重要性が改めて示された。

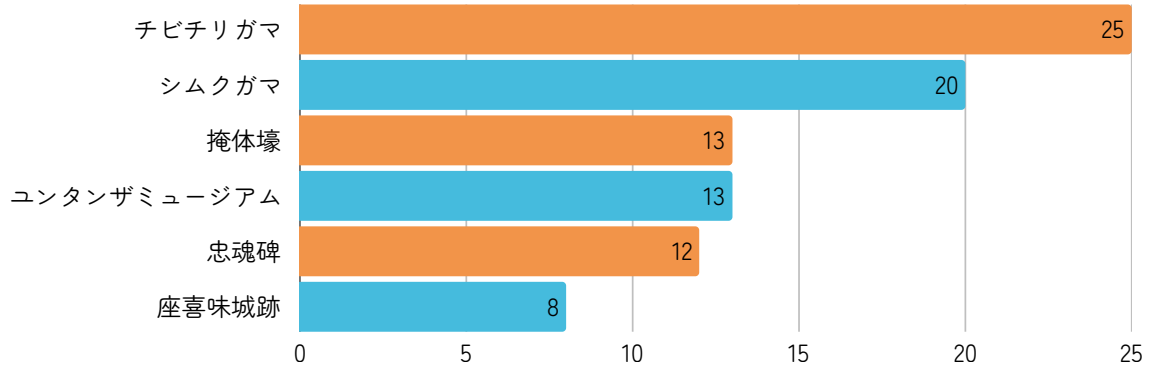
3. 結果を受けて

戦跡に込められた「痛み」を自分ごととして捉える受講者の真摯な姿勢が印象的であった。今後も「五感で感じる学習」を継続し、解説内容の精査を通じて講座の質をさらに高めていく。

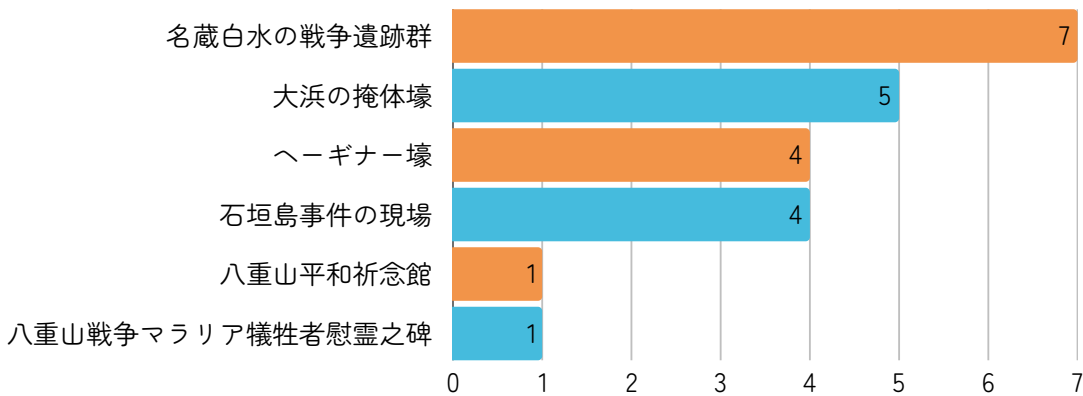
受講者アンケート結果

フィールドワークA (9.20)

Q：印象に残った場所を教えてください（沖縄本島会場）

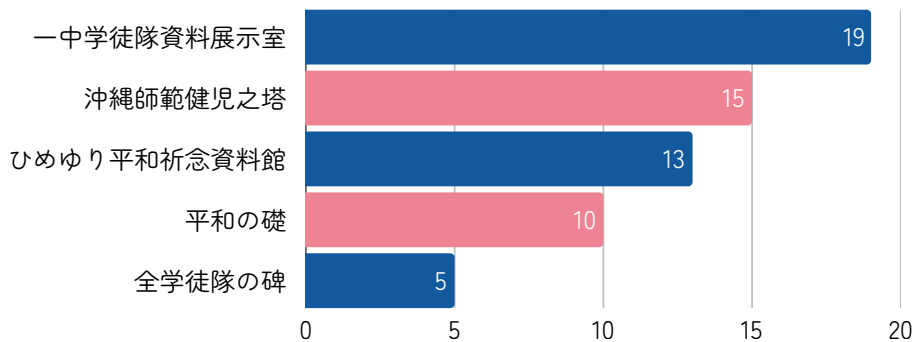


Q：印象に残った場所を教えてください（石垣島会場）

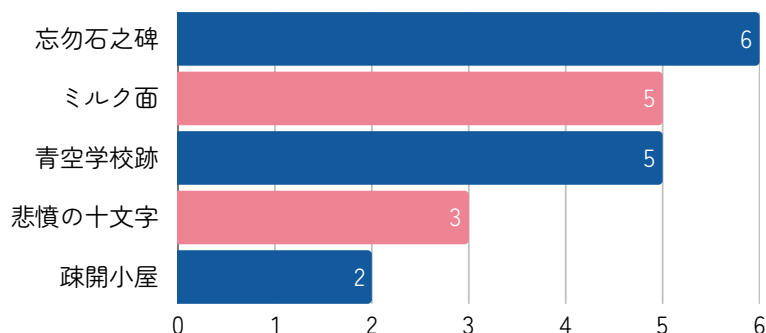


フィールドワークB (10.4)

Q：印象に残った場所を教えてください（本島会場）

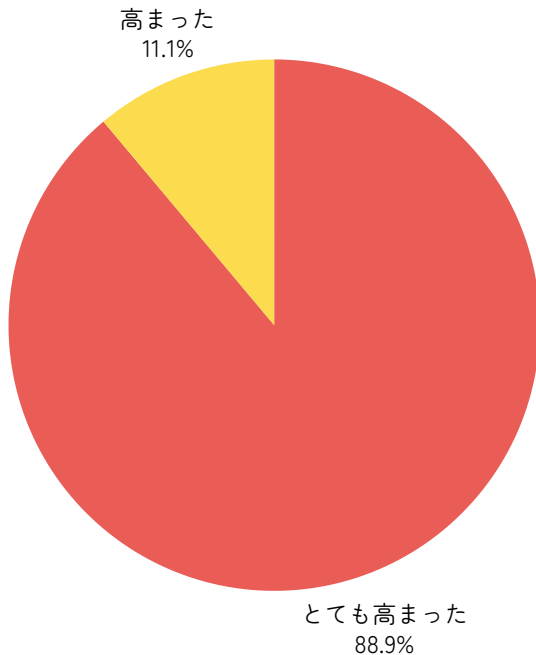


Q：印象に残った場所を教えてください（石垣島会場）

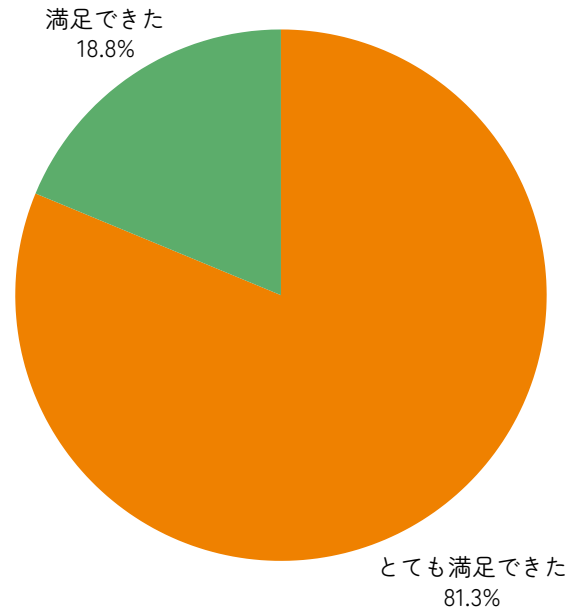


講座最終日（11.15）の受講者アンケート結果

Q：本講座、全体を通して、沖縄戦の語り継ぎ手としての意欲は高まりましたか？



Q：本講座全体の満足度をお聞かせください



講座を終えた受講者の感想

- 障害者と沖縄戦の視点で今後も深めて行きたいと思っています。障害当事者にも希望者がいるので、次年度ぜひ受講してもらいたいです。
- 私なりに、できること、戦後生まれの次世代が平和について考え、語り継ぎ手として頑張ってみます。
- 講座を企画してくださり、本当にありがとうございました。学んだことを胸に沖縄戦の語り継ぎ手として日々研鑽しながら、活動していきます。
- これまで知らなかったことを知るだけでなく、伝えていかなければと言う使命感を感じました。できる場所で、できることから始めたいです。
- 受講者の方々のいろいろな考えに触れて、これからの平和の継承の仕方をいろいろな視点で学ぶことができました。また、今後の活動の意欲も高まり、これから自分が頑張るポイントや将来の展望が見えてきて、とても良い経験になりました。
- 期間をもう少し長くして、講座の間隔をあけてもいいのかな。
- 語り手としての自信がつき、今後のガイドに活かせる機会になりました。
- 来年度の八重山諸島のフィールドワークに参加したい。
- 自分にできることを、継続して取り組んでいきたいと改めて思いました。本講座で繋がった受講者と連携した、平和ガイドの取り組みが実践できたらと考えました。
- 学んだことを活かして、次の世代に語り継ぎできるように少しずつ活動していきたいと思えます。

アンケート

- この講座を受けて、地域以外の沖縄戦の実相を学ぶことができました。初めはどのように学んでいいのかわからない不安もいっぱいありましたが、周りの先生方や受講者の方々に色々教えてもらえて、とても充実した研修を受けることができました。この研修で学んだことを生徒に還元できるように、日々研修を続けていながら沖縄戦がいかに悲惨であったのか、またそこに生き延びてきた人たちの思い亡くなった方々の思いをどのように生徒に伝えていくか？模索しながら研修に取り組んでいきたいと思えます。
- 戦争学習では、子どもたちの感想が「戦争はだめだ」といった定型的な表現にとどまってしまう課題に直面します。子どもが主体的に学べていない背景には、教員である自分自身の指導のあり方にも省みる点があると感じました。今回の講座を通して、「自分ごと」として戦争を伝えるためのヒントを得て、深く思考することができたことは、今後の教育活動に生きる大きな糧になると実感しています。
- 普通に生活していると絶対に聞けないような話をたくさん聞いて、とてもありがたかったです。新聞、本など、勉強のやり方はたくさんありますが、やっぱり専門の方、詳しい方、そして実際に体験してる方の話を直接聞くことで理解が深まりました。そして他の受講者の方の意見も聞くことで、自分の講話のイメージがだいぶ固まりました！皆さんの意見のいいところを参考にしながら、今後の自分の案内に活かしたいです。
- これからも沖縄戦に関する学習の場が、月に1回～2回程度あるといいと思った。大城館長のお話の中でもあったように、沖縄戦、平和というテーマは、重いテーマで視点の多角化が必要なものだと思う。そのために沖縄戦を語り継ぎたい思いのある人たちが、繋がりを共にブラッシュアップできる場が欲しいと思った。
- これからやってみたいことが増えました。想いを持って活動していきたいです。来年度も今年と違う内容があれば修了生も聞けると嬉しいです。
- 改めて「沖縄戦の語り継ぎ手養成講座」に参加させていただき心から感謝いたします。ありがとうございました！非常に充実した学びをいただき、同じ受講者の方からもたくさんの刺激を受けました。さっそく作ったプランを実現させるために動いていきたいと思えます。→プランを実現する前に、デモンストレーション（練習会）などを開催できるのでしょうか。私のプランは平和の礎をテーマにしており、会議室なども借りて座学も検討しています。具体的な実施について相談させてほしいです。

講座最終日のアンケートでは、語り継ぎ手としての意欲が「高まった」との回答が100%に達し、皆様の志の高さに深く敬意を表します。

「自分ごと」として伝える教育の模索や、障害当事者との視点など、多角的な平和の継承に向けた熱意ある言葉に胸が熱くなりました。本講座で得た知識と仲間との繋がりを糧に、皆様が各々の場所で、未来につながる希望の語り部として歩みを進められることを心より応援しております。

START



01 沖縄県平和祈念資料館

沖縄県平和祈念資料館は戦争の犠牲になった多くの霊を弔い、沖縄戦の歴史的教訓を正しく次代に伝え、全世界の人びとに沖縄のこころを訴え、恒久平和の樹立に寄与するため設立された。

住所：沖縄県糸満市字摩文仁614番地の1
電話：098-997-3844



02 一中学徒隊資料展示室

学徒・教職員300名を超える人々も沖縄戦に動員され、陣地構築や通信、弾薬運搬、傷兵の搬送などに従事し、多くが志半ばで命を落とした。本資料室は、養秀同窓会創立125周年記念事業として開設され、遺品や資料を通して一中戦没学徒を追悼し、戦争の惨さと平和の尊さを次世代に伝えている。

住所：沖縄県那覇市首里金城町1-7 付近
電話：098-885-6437（養秀同窓会）

本島南部フィールドワークマップ



沖縄県平和祈念資料館
HP



03 ひめゆり平和祈念資料館

ひめゆり平和祈念資料館は、1989年6月23日、沖縄戦の体験と平和の尊さを伝えるため、ひめゆり同窓会によって設立された。証言映像や当時の写真、壕の実物大模型などを通して、ひめゆり学徒隊が体験した沖縄戦の実相を伝えている。

住所：沖縄県糸満市字伊原 671-1
電話：098-997-2100



一中学徒隊資料展示室
養秀同窓会 HP



ひめゆり平和祈念資料館
HP



04 沖縄師範健児の塔

昭和20年3月31日、沖縄師範学校生徒に召集令が下り、予科2年から本科3年まで386人は鉄血勤皇師範隊を編成し日本軍の作戦に参加した。解散命令の出た後は、敵軍に斬り込む者や壕内で自決する者など多くの犠牲者を出した。終戦後、生存者と龍潭同窓会員の寄付によってこの塔ができた。

住所：沖縄県糸満市字摩文仁548
電話：098-997-2765（県営 平和祈念公園）



県営 平和祈念公園 HP



GOAL!



05 全学徒隊の碑

旧制中等学校の生徒たちが「学徒隊」として動員された歴史を伝えようと、糸満市の平和祈念公園に「全学徒隊の碑」を建立した。沖縄戦では、県内の21校すべての旧制中等学校の生徒たち計約2千人が、旧日本軍の指示などで学徒隊として戦場に動員された。学徒隊の過半数が戦死したと言われている。

住所：沖縄県糸満市摩文仁444番地
電話：098-997-2765（県営 平和祈念公園）

06 平和の礎

沖縄の歴史と風土の中で培われた「平和のこころ」を広く内外にのべ伝え、世界の恒久平和を願い、国籍や軍人、民間人の区別なく、沖縄戦などで亡くなられたすべての人々の氏名を刻んだ記念碑「平和の礎」。太平洋戦争・沖縄戦終結50周年を記念して1995年6月23日に建設された。

住所：沖縄県糸満市字摩文仁444番地 付近
電話：098-997-2765（県営 平和祈念公園）

石垣島フィールドワークマップ



START



01 八重山平和祈念館

『戦争マラリア』の実相を後世に正しく伝えるとともに、人間の尊厳が保障される社会の構築と、八重山地域から世界に向けて恒久平和の実現を訴える『平和の発信拠点』の形成を目指している。

住所：沖縄県石垣市新栄町79-3
電話：0980-88-6161



02 大浜の掩体壕

石垣市役所の北約600mの場所に所在する石垣島で現存する唯一の有蓋掩体壕。コンクリートで出来ている。1945年には、このような掩体壕を50機分造ったとされている。

住所：沖縄県石垣市真栄里722-34



03 ヘーギナー壕

石垣島内で最大といわれるヘーギナー壕は、石炭岩に掘り込まれている。主にツルハンによる掘削作業が行われ、昼夜交代制で軍の監視下で作業が進められた。

住所：沖縄県石垣市大浜 付近



八重山平和祈念館
HP



04 名蔵白水の戦争遺跡群

名蔵白水の戦争遺跡群の中には、井戸跡、かまど跡、壕、炭焼窯跡、鍋や食器が散乱する場所など、今でも当時の辛い生活を垣間見ることができる遺構や遺物（道具類など）が残されている。

住所：沖縄県石垣市字名蔵シーラ原1355-83



05 八重山戦争マラリア犠牲者慰霊之碑

沖縄県八重山地域においては軍の作戦展開の必要性から住民が悪性マラリアの有病地域である石垣島、西表島の山間部への避難を強いられ、相次いでマラリアに罹患し、三千余名が終戦前後に無念の死を遂げるに至った。

住所：沖縄県石垣市石垣961-15



06 石垣島事件の現場

1945年4月15日、太平洋戦争末期の沖縄県石垣島で、日本海軍警備隊が撃墜し捕虜としたアメリカ軍搭乗員3人を処刑・殺害した事件の現場。戦後にBC級戦犯裁判で多数の関係者が起訴され、7人の死刑が執行された。

住所：沖縄県石垣市新川11625-9

GOAL!

西表島フィールドワークマップ



START



01 忘勿石之碑

この一帯は歴史的な戦争マラリアの悲劇の霊境である。
1945年4月波照間の住民が軍命によってこの地に強制疎開させられ多くの人々が熱帯マラリアに罹患して古里の島影を求めながら亡くなった。

住所：沖縄県竹富町西表島南風見田の浜 付近



02 悲憤の十文字

「忘勿石 ハテルマ シキナ」
万感の思いで当時の波照間国民学校の識名信升校長先生が鉄剣で石に刻んだ悲憤の十文字。

住所：沖縄県竹富町西表島南風見田の浜 付近



03 疎開小屋

避難小屋は砂浜に面した森に並び、全5集落が1集落4～5班ずつに分かれて共同生活を送った。

住所：沖縄県竹富町西表島南風見田の浜 付近



04 ミルク面

1945年戦争による強制疎開中、大嵩伊佐（当時75歳）は、波照間島のムシャーマ（旧盆行事）を想いミルク面を彫りながら帰島を願ったがマラリアに罹患し、ここ南風見田海岸の疎開地で亡くなった。

住所：沖縄県竹富町西表島南風見田の浜 付近



05 青空学校跡地

国民学校の青空教室として入学式と授業が行われた場所を訪問。疎開地でも教育を続けようとした試みに対し、強制疎開の命令者山下軍曹はそれを中止させた。砂浜に文字を描き、当時を想像した。

住所：沖縄県竹富町西表島南風見田の浜 付近

GOAL!

令和7年度沖縄戦の語り継ぎ手養成講座 報告書

発行：令和8（2026）年3月

企画・発行：沖縄県 知事公室 平和祈念資料館
〒901-0333 沖縄県糸満市摩文仁614-1
電話：098-997-3844 ファクス：098-997-3947

実施 運営：株式会社うなゑ沖縄（代表：玉城直美）

報告書作成：株式会社うなゑ沖縄
玉城直美、神山怜奈、高江州琴音
〒904-2232 沖縄県うるま市川田402-1 2F
TEL：050-3000-7492/FAX：050-3730-7940
HP：<https://unaa-okinawa.com>

